



## 令和6年度 家庭の教育力に関する調査

令和7年3月実施

5歳児の保護者に  
ご協力をいただき  
ました。

調査結果から、花巻市の子どもたちは、昨年度に引き続き「朝ごはん」をしっかりと食べて、食べた後の「歯磨き」にも取り組んでいる様子が見られました。ご家庭の皆さんが毎日の生活の中で大切に意識してくださっていることが伝わってきます。

しかし、子どもたちにとって「早寝・早起き」や「あいさつ」は、まだ少し苦手な傾向が続いているようです。それでも、保護者のみなさまが、ご家庭で意識して取り組んでくださっている様子が伺えます。また、「手伝い」については、他の項目と比べると大人の働きかけが少なめで、子どもに身についている割合もやや低い様子が見られます。

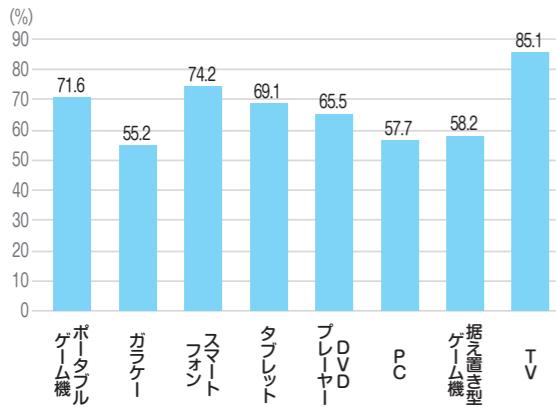
乳幼児期は、周りの大人に無条件で愛されることで基本的な信頼感を獲得しながら基本的生活習慣を形成する時期です。今しかない大事な時期だからこそ、お子さんのためができる工夫、お子さんと一緒に過ごす時間を大切にしていきたいですね。



## デジタル機器の使用状況

令和7年3月調査

## デジタル機器使用状況の割合



デジタル機器を使用している子どもの使用時間の平均は、平日が約78分、休日は約138分で、前年調査より平日の使用時間が増加しています。使用時間が長くならないよう、ルールを工夫しているご家庭が多くみられました。



## 《みんなのお家のデジタル機器使用のルール》

- 使用時間を決める。(1日30分、1回30分で1日2回まで、平日は30分・休日は1時間まで、等)
- 視聴本数、回数を決める。(動画は〇個まで、1回30分で2回まで、等)
- 使用日、使用時間帯を決める。(土日のみ、朝は見ない、夕食中はつけない、帰宅後18時から19時の間、等)
- 終了時間を決める。(20時まで、寝る前は使用しない、「おしまい」と言ったら終わり、等)
- 使用場所を決める。(親のいる所で、リビングで、明るいところで使う、離れて見る、等)
- 連続使用をしない。(休憩を必ずはさむ、〇分見たら〇分休憩、1回15分以内、等)
- 電源ON、OFFは、親がする。親に断ってから使用する。
- 生活の中の優先順位や、やるべきこと(食事、風呂、歯磨き、次の日の準備、手伝い、等)が終わってから。
- デジタル機器以外の遊びに誘ったり、他にできることを提案したりする。

大人も、子どもの前ではデジタル機器の使用を控えるなど工夫しているご家庭もあるようです。ご家庭やお子さんの状況に応じて、デジタル機器との付き合い方を考えてみましょう。

ニコニコガイドのバックナンバーは  
こちら→相談窓口は  
こちら

就学のことや子育てに関する悩み・ご相談をお受けしています。お気軽にお電話ください。

花巻市 教育委員会 TEL 0198-45-1311

● 就学前教育課(内線342) shugaku@city.hanamaki.iwate.jp  
● 学校教育課(内線362) gakkyo@city.hanamaki.iwate.jp

こども家庭センター TEL 0198-46-3606

保護者の皆さん

地域の皆さん

園の皆さん

## ニコニコガイド

共に  
育みましょう!!  
花巻市の子どもたちを

今年度のテーマは「架け橋期のカリキュラム」。幼児期は心と身体も大きく成長する大切な時期だからこそみんなと一緒に考えましょう。



## 保護者代表者交流会を開催しました

去る令和7年8月8日(金)花巻市定住交流センター(なはんプラザ)において、市内の保育園・幼稚園・認定こども園の各園の保護者代表の方々にお集まりいただき、保護者代表者交流会を開催しました。

この交流会は、各園の保護者会活動の活性化を図るとともに就学前の教育への関心を高めていただくことを目的として、毎年開催しています。今回は、教育委員会から「花巻市就学前教育プログラム」について説明した後、保護者の皆さんに「ニコニコチャレンジの取組の様子」や「保護者会活動の様子」についてグループ毎に、交流していただきました。その後、全体で情報共有を行いました。お忙しい中、ご参加いただきありがとうございました。

花巻市教育委員会では、社会で心豊かにたくましく生きていくことができる「元気な子ども」「やさしい子ども」「考える子ども」の育成を目指し、今後も、家庭・保育園・幼稚園・認定こども園・小学校・地域と連携しながら就学前教育の推進に努めています。

## ～アンケート（抜粋）～

- 各地域の情報を聞く貴重な機会だった。
- 関係機関の連携について、保護者とも情報を共有する機会があると、家庭でも意識しながら子どもと接することができると思う。
- 他の園の状況も分かりいい交流会だった。ニコニコチャレンジの有効性は浸透していないと思う。工夫が必要。
- もっと取り組みなどを情報交換できる時間や機会があってもいい。
- 就学に向けて幼児期の架け橋プログラムについて議論する場が、大事だと感じた。
- 時間が足りなかった。夕方は参加が困難。など



保護者代表者交流会の様子  
※1 幼児期の架け橋プログラム次ページに掲載しています

